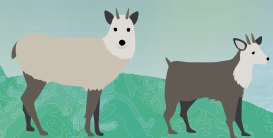
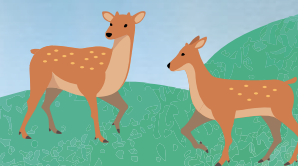




みんなでつくる 水源の森プロジェクト



東京都水道局



目次

第1章 プロジェクト策定の目的等

- 1 策定目的…………… 2
- 2 期間…………… 2

第2章 水道水源林管理の現状

- 1 水源林の概要…………… 4
- 2 水源林の働き…………… 5
- 3 水源林の管理…………… 6
- 4 水源林を取り巻く環境…………… 8
- 5 これまでの取組と課題…………… 9

第3章 本プロジェクトの概要

- 1 推進する上での視点…………… 16
- 2 取組の柱と考え方…………… 17
- 3 取組内容一覧…………… 18

コラム

- ① 水源林の多面的な機能…………… 13
- ② 水源林の動植物…………… 24
- ③ 水源地ふれあいのみち…………… 29
- ④ 多摩川水源森林隊に参加してみよう…………… 36
- ⑤ 水源林カレンダー…………… 37

第4章 取組内容

- ◆知る
 - 1 水道水源林ポータルサイト「みずふる」の拡充…………… 21
 - 2 小学生用学習支援教材等のリニューアル…………… 22
 - 3 多摩川水源サポーターの充実…………… 23
- ◆触れる
 - 1 水源地ふれあいのみち小河内ゾーンにおける新エリアの整備…………… 26
 - 2 水源林ツアーの実施…………… 27
 - 3 学生による森林保全活動の促進…………… 28
- ◆協働
 - 1 東京水道～企業の森（ネーミングライツ）…………… 31
 - 2 企業パートナー制度…………… 32
 - 3 東京水道～水源林寄附金の充実…………… 33
 - 4 多摩川水源森林隊における新たな活動の導入…………… 34
 - 5 地元自治体等関係機関との連携…………… 35

参考資料

- 1 これまでの取組実績…………… 40
- 2 取組とSDGsとの対応関係…………… 42



第 1 章

プロジェクト策定の目的等

1 策定目的

水道局では、多摩川の上流に広がる水道水源林（以下「水源林」という。）を継続的かつ計画的に育成・管理するため、おおむね10年ごとに「水道水源林管理計画」を策定し、森林保全に取り組んでおり、良好な状態を維持していますが、水源林と同程度の面積を有する多摩川上流域の民有林では、手入れが行き届かない森林が増加しています。

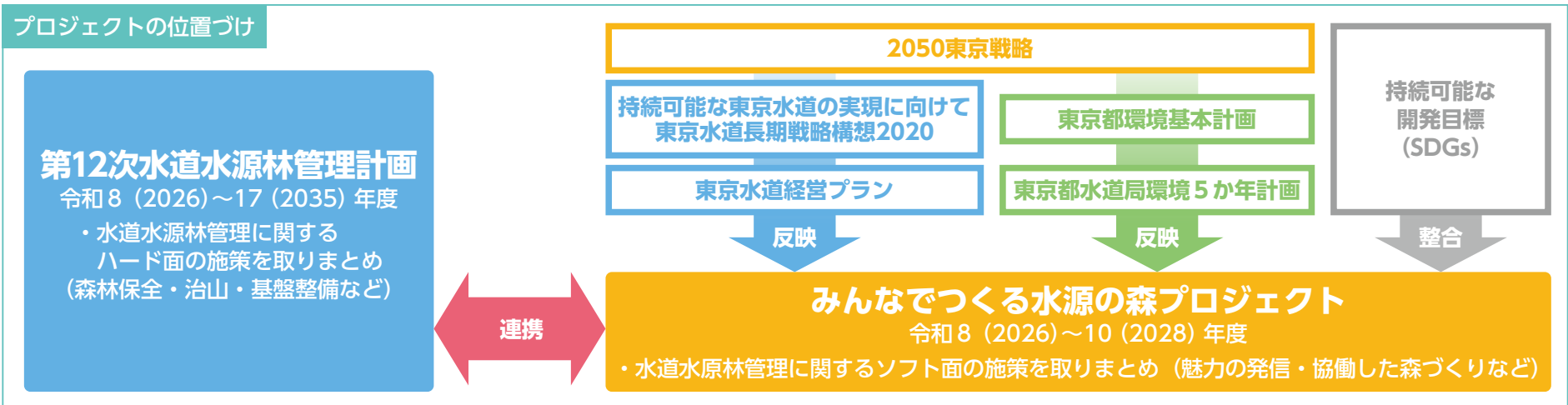
そこで、水源地保全の観点から民有林の再生が急務であるとし、「第11次水道水源林管理計画」において「民有林の積極的な購入」や「多様な主体と連携した森づくり」を掲げ、その取組を推進するため、具体的な内容を示した「みんなでつくる水源の森実施計画」を策定し、水源地の森林保全に取り組んできました。

将来にわたり安全でおいしい水を安定的に供給するためには、安心して利用できるきれいな原水の確保と安定した河川流量の保持が重要で、そのためには、原水を生み出す水源地の森林を適切に管理していくことが重要です。

このため、水源地の役割や重要性を都民や企業に理解していただき、こうしたさまざまな方々と一層の連携を図っていくため、「みんなでつくる水源の森実施計画」を進化させ「みんなでつくる水源の森プロジェクト」（以下「本プロジェクト」という。）として新たに取りまとめることで、水源地保全の取組を推進していきます。

2 期間

令和8（2026）年度から令和10（2028）年度までの3か年とします。



第 2 章

水道水源林管理の現状

1 水源林の概要

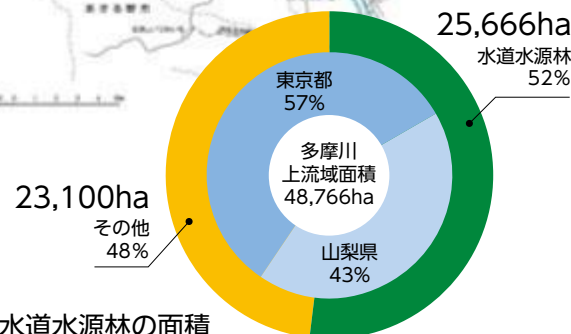
多摩川上流域のほとんどは森林となっており、その流域は奥多摩町をはじめ山梨県にまで及びます。

多摩川上流域の森林は、明治時代には焼畑や乱伐等により、荒廃が進行していましたが、こうした森林の状況を憂いた当時の東京府は、明治34（1901）年に皇室の所有であった御料林を譲り受け、水道局がこの森林を「水道水源林」として、120年以上にわたり継続的かつ計画的に育成・管理を行っています。

この間、民有林の購入なども進めながら、現在では約26,000ヘクタールの森林を水源林として管理しています。

水源林は適切に管理することで、水源かん養や土砂災害防止・土壌保全等の森林が持つ多面的な機能を発揮することが可能となり、小河内貯水池（奥多摩湖）の安定した水量の確保や水質保全にも大きく貢献しています。

【多摩川上流に広がる水道水源林】



多摩川上流域に占める水道水源林の面積



120年前（1900年代）の荒廃した山林



現在の緑豊かな水道水源林の姿

2 水源林の働き

水源林には、降った雨を土壌に蓄え河川流量を安定化させたり、土壌中を移動する過程で水質を浄化する「水源かん養機能」、山地からの土砂の流出を抑え、土砂災害の防止やダムの堆砂を抑制する「土砂災害防止・土壌保全機能」があります。

また、その他にも様々な生物のすみかとなる「生物多様性保全機能」、二酸化炭素吸収・酸素生産といった「地球環境保全機能」、行楽場所などとしての「保健・レクリエーション機能」など、多面的な機能を持っています。

水源林は、安全でおいしい水の安全供給に寄与することはもとより、我々の生活とも密接につながっています。

【森林が有する多面的機能のイメージ図】



3 水源林の管理

多摩川の安定した流量を維持し、きれいな原水を確保していくためには、水源林が持つ水源かん養機能などが十分に発揮されるよう、水源林の保全管理はもとより、多摩川上流域に広がる水源地全体の保全に取り組んでいく必要があります。

水道局では、水源林において保全管理を行うとともに、山地災害の予防と復旧、林道の整備なども行っています。

また、林業不振などにより手入れが行き届かない民有林については、ボランティア（多摩川水源森林隊）と協力した森づくりにも取り組んでおり、所有者が手放す意向のある民有林については、購入した上で必要な整備を行っています。

さらに、多様な主体と連携した森づくりを進めるため、「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」や「企業協賛金制度」の展開、水源林に関する情報を集約したポータルサイト「みずふる」の運用など、様々な取組を行っています。

適切な森林管理

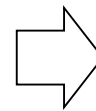


植栽

次世代の木を育てるため、苗木を植えていきます。

間伐

木の成長を促進させるとともに、林内に光を取り入れ、下層植生を豊かにするために、間引きをします。



多摩川の原水の供給

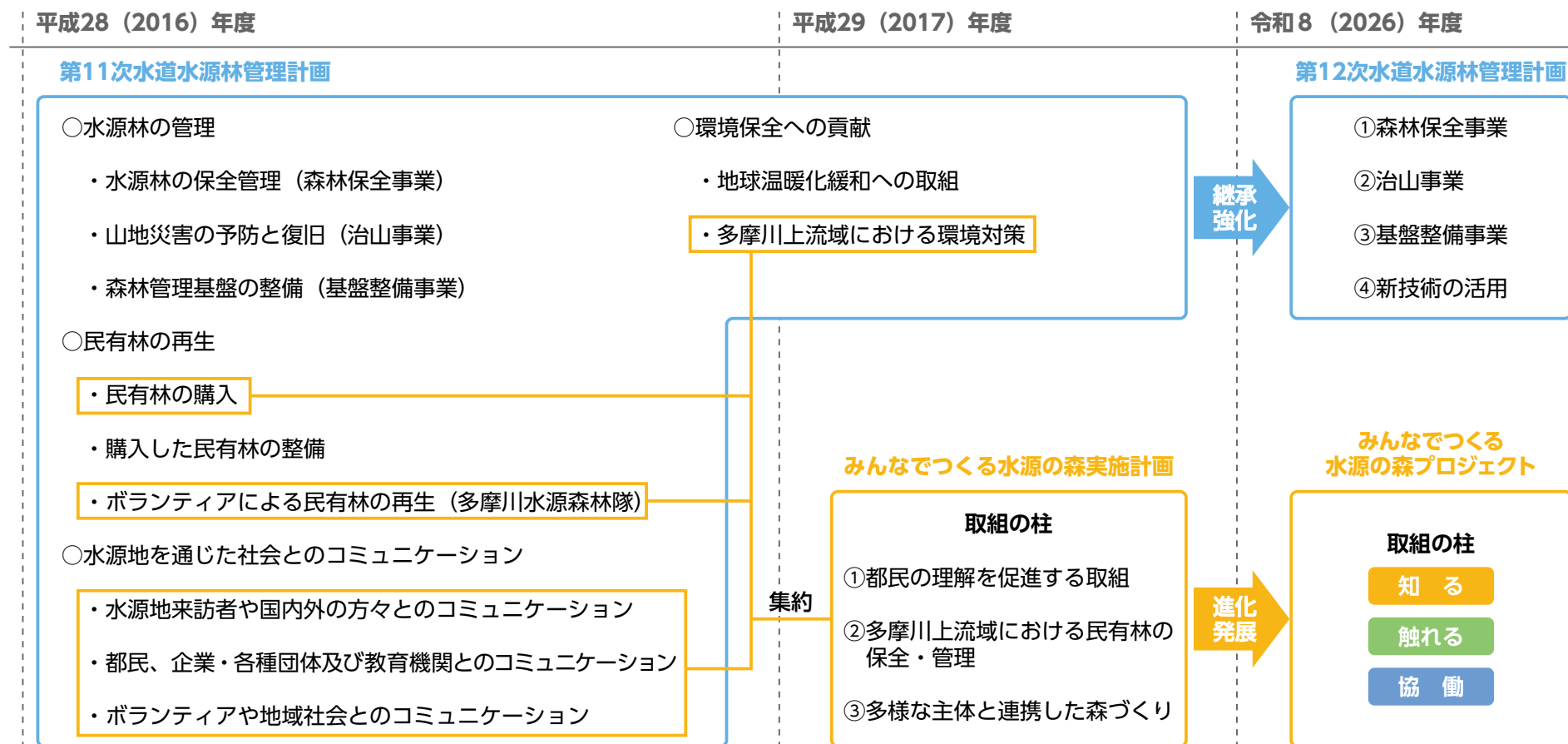


水道水源林と小河内貯水池（通称「奥多摩湖」）

小河内貯水池は、国内最大級の水道専用ダムです。水源林を適切に管理することで、ダム完成から約60年以上経過していますが、流入する土砂が少なく堆砂率は約3.8%となっています。

水源林を育成・管理するに当たっては、森林管理の方針等を示した「水道水源林管理（経営）計画」をおおむね10年ごとに策定し、継続的かつ計画的に行っています。

また、平成29（2017）年度からは、手入れの行き届かない民有林の積極的な購入や、多様な主体と連携した森づくりの取組を一層推進するため、「みんなでつくる水源の森実施計画」を策定し、水源林をはじめとした水源地の森林保全にも取り組んでいます。



4 水源林を取り巻く環境

気候変動などによる環境問題や、SDGsをはじめとした持続可能性への取組などに対する世の中の関心が高まる中、森林が持つ多面的な機能への注目が集まっており、今や森林保全はこうした取組と切り離せない関係性にあります。

今後、森林保全の取組を進めていく上では、これらの取組と連携し整合性を図っていく必要があります。

●東京都水道局 環境5か年計画2025-2029

東京都水道局環境5か年計画2025-2029は、環境基本理念に基づき、局事業に伴う環境負荷低減を実効的・総合的に推進していくことを目的としており、5年間に取り組むべき施策と目標を明らかにしたもので、環境施策の実効性の向上に取り組んでいくとしています。

●持続可能な開発目標（SDGs）と多様化するニーズ

持続可能な開発目標（SDGs）は、平成27（2015）年の国連サミットで採択された国際目標で、令和12（2030）年までに達成すべき17の目標と169のターゲットから構成されており、「誰一人取り残さない」持続可能でより良い世界の実現を目指しています。

近年、SDGsの理念が広く世の中に浸透する中で、水源林は目標との親和性が高く、企業によるCSR（企業の社会的責任）活動などの場としても活用されています。こうした機運の高まりを好機と捉え、多様な主体と連携した森林づくりを展開していくことが効果的となっています。



5 これまでの取組と課題

これまで水道局では、水源林を適切に管理するため、「水道水源林管理計画」と、このうち早急かつ重点的に推進していくべき施策を取りまとめた「みんなで作る水源の森実施計画」の2つの計画を策定し、水源林の保全管理に取り組んできました。

しかし、今ある水源林を将来にわたり適切に育成・管理を進めていくためには、都民のみなさまの理解や協力が不可欠です。また、森林が持つ効果などに対する世の中の注目が集まる中、これを好機と捉え、多様な主体と協力しながら森づくりを進めていくことが有効です。

このことから、これまで進めてきた取組の実績と課題をしっかりと認識した上で、解決策となる施策を展開していくため、前計画の見直しを行うとともに、一層発展させていく必要があります。

【これまでの取組・「みんなで作る水源の森実施計画2021」における計画の柱と主な取組】

都民の理解を 促進する取組

水道水源林特設サイトの開設

ふれあい館等のリニューアル

など

多摩川上流域における 民有林の保全・管理

民有林の積極的な購入

多摩川水源森林隊による
保全活動

など

多様な主体と連携した 森づくり

多摩川水源サポーター

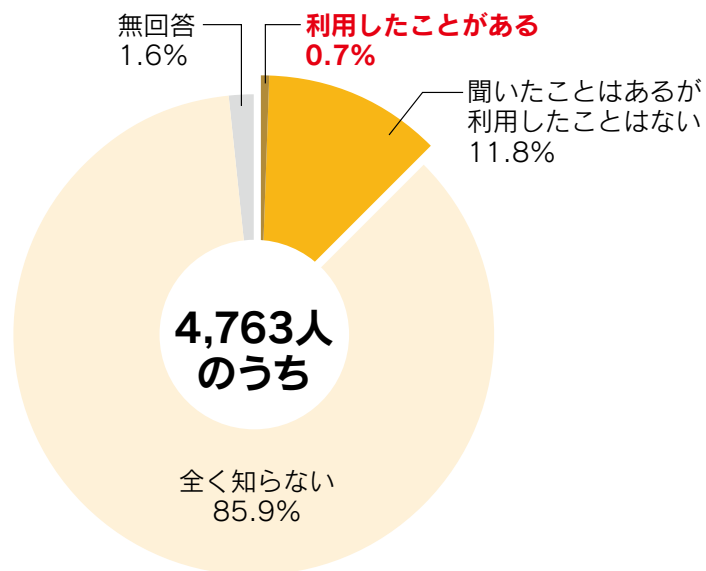
東京水道～企業の森
(ネーミングライツ)

など

「みんなでつくる水源の森実施計画2021」の主な取組と課題

	取組内容	実績（令和3年度～令和7年度）	課題
都民の理解を促進する取組	●水道水源林特設サイトの開設	・水道水源林ポータルサイト「みずふる」を令和4年3月に開設	・サイトの認知度が低く、水源地の魅力を伝えできていません
	●奥多摩水と緑のふれあい館（以下、ふれあい館）等のリニューアル	・ふれあい館を令和7年3月リニューアル（デジタル技術の活用、多言語表示の拡充等） ・ふれあい館に隣接する「ふれあいのみち小河内ゾーン」にサクラを植栽	・「ふれあいのみち小河内ゾーン」への誘導が十分にできておらず、活用できていません

【水道水源林ポータルサイト「みずふる」の利用状況等】

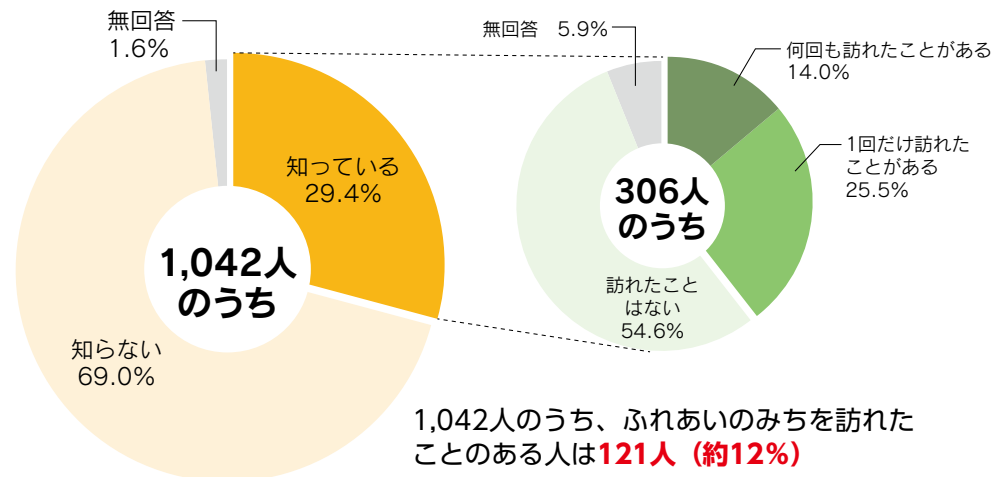


出展元：令和6年度東京の水道に関するお客さま意識調査

【ふれあい館におけるアンケート調査（令和7年度）「ふれあいのみち（小河内ゾーン）」に関する認知度】

Q ふれあい館の近くに「水源地ふれあいのみち」という散策コースがありますが、知っていますか？

Q 実際に「水源地ふれあいのみち」を訪れたことはありますか？



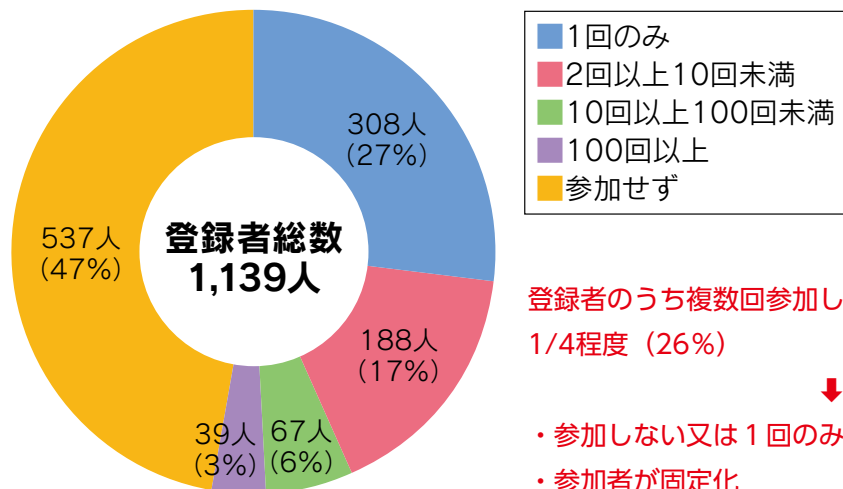
「みんなでつくる水源の森実施計画2021」の主な取組と課題

取組内容	実績（令和3年度～令和7年度）※ ¹	課題
多摩川上流域における 民有林の保全・管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 民有林の購入 <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な購入※² 936ha ・公募による購入 184ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・購入した森林の整備が必要になっています ※「水道水源林管理計画」にて別途解決策を検討します
	<ul style="list-style-type: none"> ● 多摩川水源森林隊による保全活動 <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川水源森林隊による保全活動を実施 活動回数 637回 参加者 6,396人 活動面積 55.63ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の固定化が進んでいます ・初心者にとって難易度が高い作業が多く気軽に参加しづらい状況です

※1 令和7年度の実績は令和7（2025）年12月末現在のものです

※2 小河内貯水池への影響が特に懸念される周辺地域での取組

【森林隊ボランティア登録者とその参加傾向（令和5年3月）】



登録者のうち複数回参加したことがある方の割合は
1/4程度（26%）



- ・参加しない又は1回のみの参加が大半
- ・参加者が固定化

作業に関する意見

- ・力もないし運動能力も低いのでそういう人も参加しやすいイベント形式が良いと思う
- ・季節が良い時期に軽めのお手伝いが良い
- ・女性でもできる作業がよい

（令和5年度スイサポ交流会アンケートより）

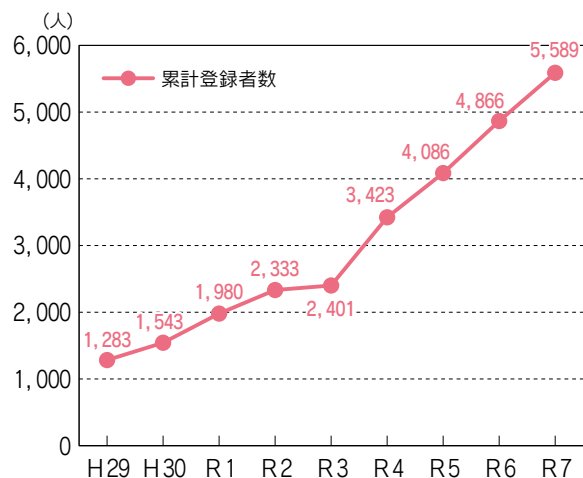


「みんなでつくる水源の森実施計画2021」の主な取組と課題

	連携主体	実績（令和3年度～令和7年度）	課題
多様な主体と連携した森づくり	●多摩川水源サポーター	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターの方にイベント情報や水源地の状況をメールマガジンで配信 登録者数 約5,600人※ メールマガジン配信 12回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地への理解促進のため、今後もサポーターを増やしていく必要があります
	●東京水道～企業の森（ネーミングライツ）	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と協定を締結し森林保全を実施 協定締結企業数 12社 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた活動エリア数が上限に達している状況です
	●小学生向け学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援教材を小学校に配布 配布校数 約120校/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の教材に最新の取組などを反映できておらず、内容の見直しが必要です

※ 実績は令和7（2025）年12月末現在のものです

【多摩川水源サポーター 登録者の推移】



【企業と連携した森づくり】



【現在の学習支援教材】

〈現在の紙教材〉
フル学習で10時間程度

〈現在のデジタルブック〉
紙教材を電子化したもの

コラム 森林の多面的な機能

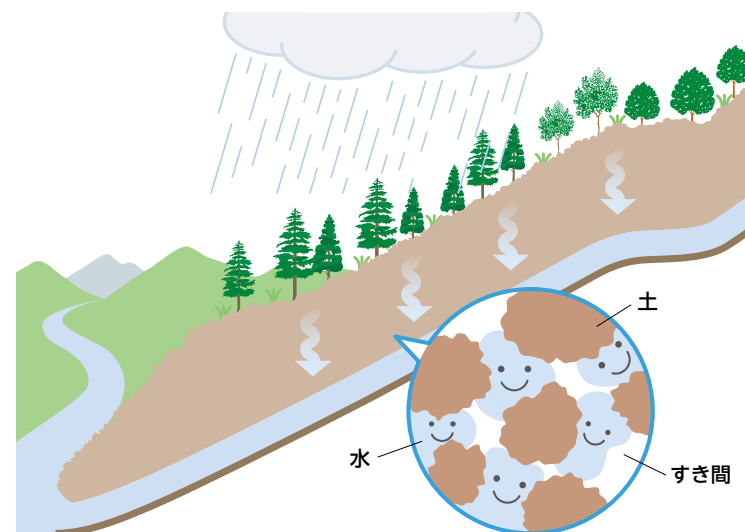
i. 水源かん養機能

健康な森では、落ち葉などを分解する微生物等の土壌生物の活動により、スポンジのように小さなすき間がたくさん空いた、保水力の高い土壌がつくられています。

森に降った雨は、このふかふかの土壌を通して地中深くにしみ込み、蓄えられ、地下水となってゆっくり川へと流れ出ていきます。

森はこのような働きによって、川に流れる水の量を調整して洪水や渇水を緩和するため、「緑のダム」とも呼ばれています。

また、雨が地中にゆっくりと浸透する間に、空気中で付着したちりなどの汚れが取り除かれて、きれいな水になります。

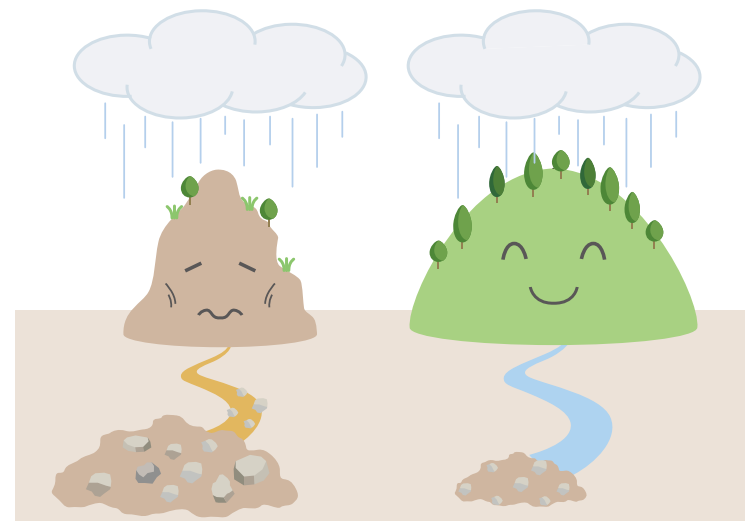


ii. 土砂流出防止・土壌保全機能

健康な森では、木の枝葉や草、落ち葉などがクッションの役割を果たし、雨が直接地面を打ちつける衝撃から土を守っています。

また、ふかふかの土壌は雨水を素早く浸透させるため、土が雨水とともに流されることを防いでいます。

さらに、樹木の根が地面をしっかりを押さえるため、土砂災害が起きにくくなります。



iii. そのほかの機能

水源林には、「水源かん養機能」や「土砂災害防止・土壌保全機能」といった代表的な機能のほか、様々な生物のすみかとなる「生物多様性保全機能」、二酸化炭素吸収・酸素生産といった「地球環境保全機能」等自然界において重要な機能があります。

そのほかにも、「快適環境形成機能」、「保健・レクリエーション機能」や「文化機能」等の様々な機能もあります。

【簡易解説】

・生物多様性保全機能

希少種を含む多様な生物の生育・生息の場を提供する機能

・地球環境保全機能

樹木が大気中の二酸化炭素を吸収し、立木や木材として固定するとともに、バイオマス燃料として化石燃料を代替することなどにより地球温暖化防止に貢献する機能

・快適環境形成機能

気温や湿度等を適度なものとするほか、強風やこれに伴う飛砂及び塩分、騒音、塵埃^{じんあい}などから、農地、道路、鉄道、住環境等を守る機能

・保健・レクリエーション機能

安らぎや癒し、行楽、スポーツの場を提供する機能

・文化機能

文化的価値のある景観や歴史的風致を構成し、文化財等に必要な用材等を提供する機能

(出展 林野庁 林業白書)



第 3 章

本プロジェクトの概要

1 推進する上での視点

水源地における森林保全を進めていく上では、都民からの理解と協力はもとより、多様な主体との連携が不可欠ですが、水源林の適切な管理に関する都民の認知度は、いまだ5割程度にとどまっています。都民や多様な主体への理解を促進するためには、水源林の役割や水源地保全の重要性を分かりやすく説明していく必要があります。

このことから、これまで行ってきた「みずふる」[※]の運営や「水源林ツアー」の開催などの取組を進化させることに加え、水源地の森林や水源林に直接触れていただく機会を増やし、みんなで森づくりを行っていくといった意識を醸成し、水源地保全の機運を高めていきます。

なお、各取組を推進するに当たっては、「水道水源林管理計画」に掲げた施策との連携や、都や局をはじめとした、各種関連計画との整合を図っていきます。



水源林ツアーの様子



※水道水源林ポータルサイト「みずふる」

多くの方々に「東京水のふるさと」である水源林の魅力を分かりやすく伝えるため「水道水源林ポータルサイト **みずふる**」を令和4年3月に開設しました。サイト内には水源林の散策動画などがあり、水源林に関する様々な情報を分かりやすく発信しています。



動画による情報発信

2 取組の柱と考え方

水源地の森林をみんなで守っていくといった機運を醸成していくためには、まずは水道局が管理する水源林に興味を持ってもらう必要があり、その入口となる「知る」機会を創出していくことが重要です。

また、水源地保全に対する理解を深めてもらうためには、現地を訪れ、水源地の魅力に直接「触れる」ことで、写真や資料からでは得られない体験をしてもらい、その役割や大切さを実感してもらうことが効果的です。

さらに、多様な主体との森づくりを進めていくためには、水源地保全の機運を高め、みんなで「協働」して森を育てていくといった一体感を醸成していくことが必要です。

このことから、本計画では、「知る」「触れる」「協働」を取組の柱としていきます。

知 る

幅広い年代に向けて水源林の認知度向上を図り、水源地保全の重要性を知ってもらう

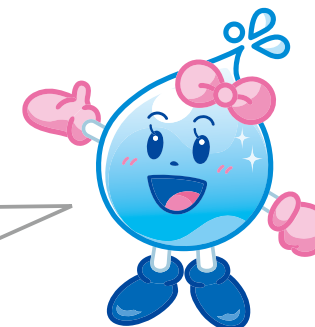
触れる

水源林の現地を訪れ、水源地の魅力に直接触れてもらう

協 働

企業、都民、関係自治体等と協働して、水源の森づくりを行い、水源地保全に対する理解促進を図る

幅広い世代の人々に水源林を
知ってもらおう・来てもらおう



3 取組内容一覧

みんなで作る水源の森プロジェクトの体系

取組の柱	項目	主な取組内容	頁
知る	水道水源林ポータルサイト「みずふる」の拡充	・チャットボットの導入など	P.21
	小学生用学習支援教材等のリニューアル	・学習支援教材等のリニューアル	P.22
	多摩川水源サポーターの充実	・メールマガジンの配信	P.23
触れる	水源地ふれあいのみち小河内ゾーンにおける新エリアの整備	・展望施設等の新設 ・ふれあい館との連携	P.26
	水源林ツアーの実施	・現地散策ツアーの実施	P.27
	学生による森林保全活動の促進	・森林隊でのキャンパスDAYの実施	P.28
協働	企業と連携した森づくりの充実	・企業の森の拡充	P.31
		・企業パートナー制度の新設	P.32
	東京水道～水源林寄附金の充実	・法人向け寄附メニューの新設	P.33
	多摩川水源森林隊における新たな活動の導入	・親子体験活動など新たな活動の展開	P.34
	地元自治体等関係機関との連携	・地元自治体と連携した水源地のPR	P.35

第 4 章

取組内容

知る

幅広い年代に向けて水源林の認知度向上を図り、水源地保全の重要性を知ってもらう

- 1 水道水源林ポータルサイト「みずふる」の拡充
- 2 小学生用学習支援教材等のリニューアル
- 3 多摩川水源サポーターの充実



1 水道水源林ポータルサイト「みずふる」の拡充



◆現状

- 水源林に関する情報発信や、都民とのコミュニケーションの場として、水道水源林ポータルサイト「みずふる」を令和3年度に開設しました。
- 「みずふる」では、水源林に関する基本的な情報に加え、現地を紹介した動画を掲載するなど、水源林の魅力を発信しています。
- また、水源林ツアーなどの各種申込みに活用されています。

◆課題等

- 令和7年度末時点で、サイト開設から4年が経過しましたが、都民からの認知度は、いまだに低い状況にあります。
- ほしい情報を簡単に検索できるようにしたり、魅力的な情報を発信するといったサイトの充実を図っていく必要があります。

◆取組の方向性

- 引き続き、各種イベントなどにおいて「みずふる」をPRするとともに、ショート動画等のコンテンツを充実させるなど、分かりやすい情報発信を行っていきます。
- サイト内の検索機能を向上させるため、チャットボットを導入していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
みずふるの拡充	チャットボットの導入	ショート動画等コンテンツの充実	学習コンテンツの充実



水道水源林ポータルサイト「みずふる」



チャットボットの導入（イメージ）

2 小学生用学習支援教材等のリニューアル

◆現状

- 小学校での学習に活用できるよう、水源林に関する学習支援教材（紙教材）を配布しています（平成21年度～、約120校／年）。
- 「みずふる」では、水源林について、誰もが学ぶことができるよう、紙教材のデジタルブック版や学習支援動画を掲載しています。

◆課題等

- 現在の「みずふる」で掲載しているデジタルブック（紙教材を電子化）や動画では、水源地における最新の取組等を反映できておらず、内容の見直しが必要となっています。
- 子どもたちに、水源林に興味を持ってもらえるよう、簡単にアクセスでき、学べる環境を整備していく必要があります。

◆取組の方向性

- 学習支援教材を刷新し、教材としての充実を図ります。
- 自由研究などにも活用できる、動画や教材を集約した「キッズページ」を新設していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学習支援教材等の リニューアル	企画検討		改修・提供



キッズページを活用した学習風景（イメージ）

3 多摩川水源サポーターの充実

◆現状

- 水源地への来訪が難しい方にも、気軽に興味を持っていただけるよう、多摩川水源サポーター制度を平成29年度に創設しました。
- 登録いただいたサポーターの方々には、水源地の魅力を伝えるため、自然を感じることができる四季折々の情報やイベントに関する情報などを、月2回程度のメールマガジンにより配信しています。
- 水源林ツアーや地元イベント等において制度のPRを行ってきた結果、現在の登録者は5,000人を越えました（令和7年度末現在）。

◆課題等

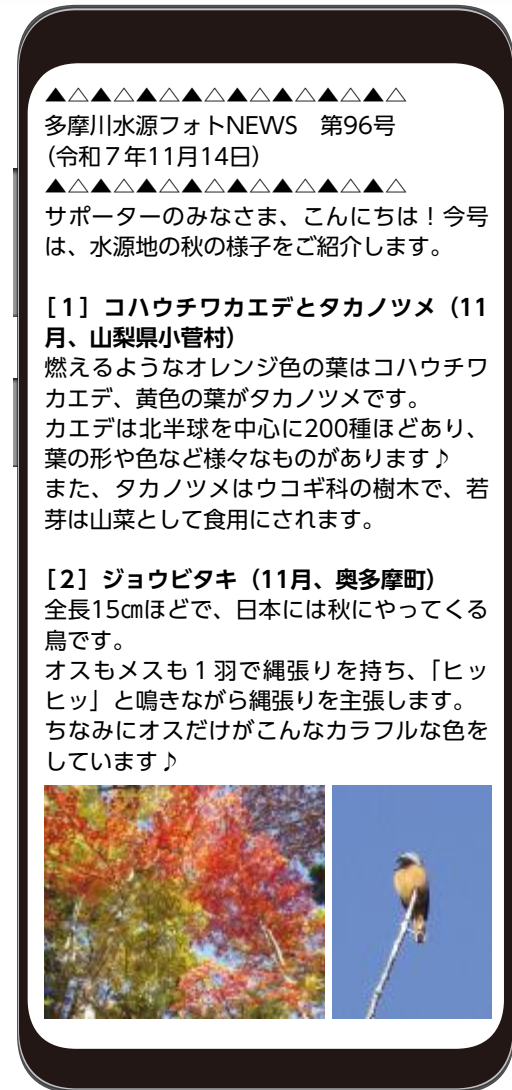
- 多くの方にご登録をいただいておりますが、水源地での取組を応援していただけるサポーターを今後も継続的に増やしていく必要があります。

◆取組の方向

- 引き続き、タイムリーな情報をみなさまにお届けするとともに、新たなサポーターを獲得するため、各種イベントなどで広報を行っていきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
多摩川水源サポーター	メールマガジンの配信		



メールでの紹介事例

コラム 水源林の動植物

水源林には私たちの生活に欠かせない水を育む以外にも、動植物を育てる役割があります。

自然豊かな水源林では、多種多様な動植物と出会うことができます。国の天然記念物のニホンカモシカをはじめ、希少な動植物が生息していて、複雑な生態系は「生物多様性」※に大きく寄与しています。

しかし、この豊かな生態系は、最初から存在していたわけではありません。かつて荒廃していた森林は、人の手による再生を経て、動物たちの住みかやエサを供給する場となりました。また、動物たちは木の実を食べたり、体にくっつけたりして種を運ぶことで、様々な場所で植物を芽吹かせ、森林の発展を助ける——そんな相互関係が築かれ、現在の姿へとつながっているのです。

多種多様な動植物



ヒガラ



アズマシャクナゲ



ニホンカモシカ



カタクリ

※生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上では40億年という長い歴史の中で、様々な環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つ一つに個性があり、全て直接もしくは間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。生物多様性が維持されることで私たちが生きるのに欠かせない酸素の供給や農作物といった食料の供給が自然から行われています。(出展 環境省)

触れる

水源林の現地を訪れ、水源地の魅力に直接触れてもらう

- 1 水源地ふれあいのみち小河内ゾーンにおける新エリアの整備
- 2 水源林ツアーの実施
- 3 学生による森林保全活動の促進



1

水源地ふれあいのみち小河内ゾーンにおける新エリアの整備

3
すべての人に
健康と福祉を

15
緑の豊かさも
守ろう

17
パートナーシップで
目標を達成しよう

◆現状

- 水道局では、水源地の豊かな自然を身近に感じてもらえるよう、水源林と奥多摩湖を一望できる散策路「水源地ふれあいのみち小河内ゾーン」を整備しています。
- 隣接する奥多摩湖やふれあい館には、多くの方が訪れ、観光スポットになっています（ふれあい館来館者数・約18万人／年）。

◆課題等

- 奥多摩湖やふれあい館を訪れる人は一定程度あるものの、ふれあいのみち小河内ゾーンに十分に人を呼び込めず、活用できていません。
- また、整備開始から約30年が経過しており、一部で経年劣化が進行するなど、施設の老朽化が進んでいます。

◆取組の方向性

- ふれあい館に案内板や二次元バーコードなどを設置し、来館者を水源地ふれあいのみち小河内ゾーンに誘導できるようにしていきます。
- 登山者やマイカー観光客など、幅広い人々に訪れていただけるように、展望施設やイベントエリアの新設に加え、豊かな植物群落を育成していきます。
- 老朽化した施設については更新などを行い、安全性や利便性の向上を図ることで、水源地の魅力を発信していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
新エリアを活用した水源地のPR	新エリアの整備		



新エリアの整備位置



展望施設のイメージ

2 水源林ツアーの実施



◆現状

- 水源地の魅力や重要性を知ってもらうため、水源林を訪れるツアーを行っています。
- ツアーでは、散策に適した夏休みや紅葉時期に、水源地ふれあいのみちの柳沢峠ゾーン（甲州市）と小河内ゾーン（奥多摩町）で年6回程度開催しています。

◆課題等

- 定員を上回る数の応募があり、参加者の満足度も高い状況ですが、親子で参加できる機会を増やしてほしいという声が寄せられています。

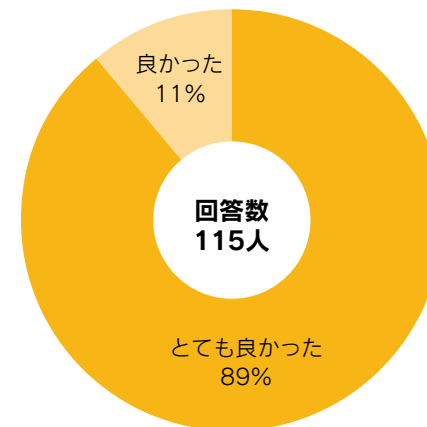
◆取組の方向性

- 親子優先枠の設定など親子層が参加しやすくなるようなツアーの充実を図り、より幅広い層に水源林の魅力や重要性をPRしていきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
水源林ツアー	現地散策ツアーの実施		

【令和7年度水源林ツアー参加者満足度】
Q. 水源林ツアーに参加してみたいかでしたか



令和7年度水源林ツアーの様子

3 学生による森林保全活動の促進

◆現状

○若い人にも水源地保全の重要性を知ってもらえるよう、多摩川水源森林隊を活用し、大学生による森林保全活動を実施しています。

(令和6年度活動実績：5校15名 令和7年度活動実績：3校10名)

◆課題等

○毎年、複数の大学と連携して活動を行っていますが、新たな大学からの参加が少ない状況です。

◆取組の方向性

○大学生をはじめとした学生が、気軽に多摩川水源森林隊の活動に参加できるよう、新たに「キャンパスDAY」※を設けていきます。

○若い人に水源地保全の重要性を知ってもらえるよう、近隣の学校などに呼びかけを行い、より多くの学生の参加を促進していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学生による森林保全活動	キャンパスDAYの開催及び積極的なPRを実施		

※キャンパスDAY…森林保全活動の参加者を大学生をはじめとした学生に限定した活動日



大学生による森林保全活動

コラム 水源地ふれあいのみち

水源林をより多くの方々に親しんでいただくため、水道局では「水源地ふれあいのみち」という散策路を3コース整備しています。普段の生活では触れる機会の少ない水源林の豊かな自然を肌で感じてみませんか？

水源地ふれあいのみち
水干ゾーン（山梨県甲州市）
多摩川の始まりを訪れる
「源流のみち」



本格的な登山が楽しめる登山エリアで、多摩川の最初の一滴である「水干」や荒川、富士川、多摩川の分水嶺も見るができます。

詳細なコースはHPをご覧ください

水道水源林ポータルサイト「みずふる」

『水源林に行ってみよう～水源地ふれあいのみちのご紹介～』

URL : <https://www.mizufuru.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/fureaino-michi/>



水源地ふれあいのみち
小河内ゾーン（東京都奥多摩町）
奥多摩湖を眺望する
「見はらしの丘」



小河内貯水池（通称「奥多摩湖」）に隣接するエリアで、都心から電車とバスで来ることができるアクセス良好なハイキングコースです。

水源地ふれあいのみち
柳沢峠ゾーン（山梨県甲州市）
ブナなどの天然林を歩く「ブナのみち」

ブナやミズナラなど多種多様な植物を身近に観察することができるエリアで、樹種名がわかるよう、それぞれの木々にネームプレートがあり、気になった木の名前を調べながら散策することができます。



協働

企業、都民、関係自治体と協働して、水源の森づくりを行い、水源地保全に対する理解促進を図る

- 1 東京水道～企業の森（ネーミングライツ）
- 2 企業パートナー制度
- 3 東京水道～水源林寄附金の充実
- 4 多摩川水源森林隊における新たな活動の導入
- 5 地元自治体等関係機関との連携



1 東京水道～企業の森（ネーミングライツ）



◆現状

- 企業のみなさまと水道局が連携して森づくりを行う取組として、平成29年度より、水源林内の一部の森林に「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」を設けており、現在12社と協働しています（令和7年度末時点）。
- 企業は、協定エリア内での森林保全体験や小河内ダムの見学などを通じて、森づくりに取り組んでおり、社員研修にも活用され好評をいただいています。

◆課題等

- 複数の企業から新たに参画希望の相談を受けていますが、予定していた活動エリア数の上限に達し、希望する企業が参画できない状況にあります。

◆取組の方向性

- 間伐や植栽などの森林保全活動を安全に行えるエリアを新たに創出するとともに、サポート体制を整備することで、参画企業の拡大を図っていきます。
- 参画企業の様子などを「みずふる」や水道局広報などを通じて発信していくことで企業と連携した森づくりの機運を高めていきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
活動場所の拡充	新規参画企業の受入・新規活動場所の整備		
	3箇所		



水道局職員による水源林の説明



企業による森林保全活動の様子

2 企業パートナー制度

◆現状

- より多くの企業に森づくりに参画していただくため、「企業協賛金制度」を平成29年度に創設し、現在22社から協賛していただいています（令和7年度末時点）。
- 企業への特典としては、対外的なPR（CSR活動）や水源林体験ツアーへの参加（年2回程度）などとなっています。
- 1年単位かつ協定地を設けないといった点がネーミングライツと異なり、企業にとって参加のハードルが低く、気軽に森づくりに携わることができます。

◆課題等

- 企業からのニーズとして、ツアー参加だけでなく「森林での現地活動」の機会を設けてほしいといった意見をいただいています。

◆取組の方向性

- 現地活動の機会を設けるなど、企業が森づくりに参画できる環境を増やしていきます。
- 企業と水道局とが協働して森づくりを行うイメージが持てるよう、制度の名称を「企業協賛金制度」から「企業パートナー制度」へと変更します。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
パートナー企業による 森林保全活動	5回/年	7回/年	10回/年



企業パートナー制度の概要	
金額	10万円
協賛期間	1年間
特典 ※協賛金額に応じて設定	<ul style="list-style-type: none"> ○水道局によるパートナー企業PR ：HPや水道局PR施設で紹介 ○水源林体験ツアー ：森林散策と軽作業体験を実施 ○森林保全活動を追加 ：企業単位で参加可能 間伐等の森林保全作業を実施 ○記念証：間伐材グッズ



森林保全作業



記念証
(間伐材を使用した楕)

3 東京水道～水源林寄附金の充実

◆現状

- 水源地の森林をみんなで守り育てていくため、個人と法人の区分に関係なく寄附を募集しており、間伐や枝打などの森林保全作業の費用に活用しています。
- 寄附された方は、税制上の優遇を受けられるほか、希望する方には、記念品の贈呈を行っています。

◆課題等

- 個人からはおおむね好評をいただいておりますが、法人にとってはメリットが少なく、また、認知度も低い状況にあります。

◆取組の方向性

- 法人に対しては、感謝状を贈呈するほか、水道局のホームページで紹介していきます。
- 森づくりに興味がある法人が、より気軽に参画できるよう制度を見直し、法人向けのメニューを新設していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
東京水道～水源林寄附金	新制度実施		



分類	法人寄附メニュー (新設)	個人寄附メニュー (継続)
対象	法人	個人
特典	感謝状の贈呈等	記念品の贈呈等
	HPIに寄附企業紹介ページを新設	希望に応じて寄附者名を公表



水道水源林ポータルサイト「みずふる」
東京水道～水源林寄附金ページ（現行）

4 多摩川水源森林隊における新たな活動の導入



◆現状

○多摩川上流域の約4割^{*}は民有林であり、その多くは手入れが行き届いておらず、そのような民有林を緑豊かな森林へと再生するため、平成14年度に「多摩川水源森林隊」を創設し、民有林の保全に取り組んでいます。

○森林隊では、ボランティアの方々の力を借りて、間伐、枝打、道づくり等の森林保全活動を毎年150回程度行っており、延べ約1,500人が参加し、民有林の再生に取り組んでいます。

◆課題等

○荒廃した森林を手入れするため、傾斜地における間伐等の難易度の高い作業が多くなっています。
○初心者向けの簡易な作業があると参加しやすいとの声があります。

◆取組の方向性

○これまで行っている間伐や枝打作業に加え、巣箱設置や清掃活動などの気軽に参加しやすい活動を増やし、初心者や親子など幅広い層の参加を促進していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
森林隊による森林保全活動	新たな活動の導入（15回／年）		

^{*}多摩川上流域面積割合…水源林53% 民有林39% その他8%



新たな活動メニューの例

～多摩川水源森林隊について～

多摩川水源森林隊は平成14（2002）年度の設立以来、多くのボランティア隊員の参加により、手入れの行き届かない民有地の人工林（民有林）を再生してきました。

これまでの活動実績はのべ360ha超にもなり、ボランティアの方々による活動は水源地の保全に大きく貢献しています。

5 地元自治体等関係機関との連携

◆現状

- 多くの都民に水源地地域の魅力を知っていただくため、多摩川上流域の奥多摩町、小菅村、丹波山村の各町村と連携したPR活動や情報発信などを行っています。
- 地元自治体主催のお祭りなどでは、水源林のブースを出展し、地域振興に寄与するとともに、水源地保全のPR活動を行っています。

◆課題等

- 水源地の保全を将来にわたり行っていくためには、地元の理解と協力が不可欠です。

◆取組の方向性

- 地元住民との交流促進と、水道局の事業を理解していただく貴重な機会である地元自治体のイベントなどに積極的に参加していきます。
- 多摩川水系上下流交流会などを通じ、地元自治体と交流していきます。

◆スケジュール

	令和8年度	令和9年度	令和10年度
地元自治体と連携したPR	イベント等でのPR		
地元自治体と連携した水源地の保全	関係機関との連携による事業の実施		



地元自治体主催のお祭りの様子
(山梨県小菅村の多摩源流祭り)



多摩川水系上下流交流会の様子
(山梨県丹波山村)

コラム 多摩川水源森林隊に参加してみよう

森林隊ってどんな活動をするの？

「森林保全活動に参加してみたい」「自然の中での体験に興味がある」と思っている、いざ参加するのはちょっと不安に思うことはありませんか？ここでは「間伐作業」を例に、「森林隊の1日の活動の様子」をご紹介します。

🕒 9:15 事務所集合
(JR奥多摩駅から徒歩10分程度です)



🕒 9:30 朝礼
(注意事項を確認し、準備体操を行います)



車で移動します

🕒 午前の作業開始
(指導員のサポートを受けながら、木を切り倒します！)



🕒 15:30 解散 一日お疲れ様でした



🕒 13:00 午後の作業開始



車で戻ります

🕒 12:00 おひるご飯
(森の中で食べるお弁当は格別です！)



森林隊では、ここでご紹介したような間伐や枝打といった作業難易度の高い森林保全活動を主に実施してきましたが、令和8年度からは初心者の方や親子層でも無理なく参加できるものなど、様々な活動を行っています。ぜひ一度、足を運んでみてください。

より詳細な情報を知りたい方は、水道水源林ポータルサイト「みずふる」をご覧ください。

みずふる 森林隊 検索







<https://www.mizufuru.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/create/forest-team/>

コラム 水源地カレンダー

水源地では1年を通して四季折々で様々なイベントがあります。

今回のコラム作成にあたって、令和7年度時点での各種イベントをまとめてみました。特に、春から秋にかけて様々なイベントが開かれ、多くの人々が水源地を訪れます。

是非、ご参考にしてみてください。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
季節												
	冬		春		夏			秋				
	高標高地では3月頃まで積雪		花見は4月上旬～5月上旬		登山最盛期			紅葉の見頃10月下旬～11月下旬				
	★藤やツツジの見頃 5～6月頃 ★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃			★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃				
	★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃			★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃				
	★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃			★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃				
東京都水道局主催イベント	★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃			★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃				
関係機関イベント	★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃		★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃			★ヤマユリなど高山植物の見頃 6～7月頃				



參考資料



1 これまでの取組実績

※令和7年度の実績は令和7（2025）年12月末現在のものです。

水道水源林特設サイトの開設【みんもり2021】

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
アクセス数（回）	—	—	—	—	2,349	71,304	83,664	89,762	86,070

花々で彩る水源林【みんもり2021】

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
植生回復柵	—	—	—	—	設置1箇所 モニタリング 1箇所	設置3箇所 モニタリング 4箇所	モニタリング 4箇所	モニタリング 4箇所	モニタリング 4箇所
サクラ補植（本）*	—	—	—	—	279	384	251	—	—

※サクラ以外の樹種含む

民有林の購入（小河内貯水池への影響が特に懸念される周辺地域）

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
面積（ha）	80	115	270	252	256	267	193	206	14
件数	14	42	65	58	50	90	59	66	1

民有林の購入（公募）

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
面積（ha）	147	155	34	15	24	76	68	16	0
件数	9	10	4	1	4	5	3	3	0

多摩川水源森林隊による森林保全活動

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
実施回数	150	151	138	91	53	161	160	153	110
参加者数	1,999	1,843	1,543	920	528	1,681	1,538	1,553	1,096
整備面積（ha）	16	20	8	20	3	15	12	15	10

購入した森林の再生

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
整備面積 (ha)	82	93	97	118	120	102	80	75	105

多摩川水源サポーター

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
メールマガジン配信回数	19	23	23	23	24	24	24	24	18
登録者 (人)	1,283	1,543	1,980	2,333	2,401	3,423	4,086	4,866	5,589

東京水道 水源林寄附金

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
件数 (件)	—	42	31	11	28	29	43	42	33
金額 (円)	—	271,657	5,409,010	1,974,714	2,667,903	3,080,947	3,786,519	2,615,752	992,000

東京水道～企業の森 (ネーミングライツ)

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
参画企業数 (社) (うち新規)	6 (6)	7 (1)	7 (1)	9 (2)	12 (3)	12 (0)	12 (0)	12 (0)	12 (0)

企業協賛金制度








年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
協賛企業数 (社)	9	7	7	10	12	14	15	19	22
口数 (口)	20	10	10	21	33	30	25	30	34

学生による森林保全活動

年 度	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
学校数 (校)	3	4	3	0*	0*	3	5	5	3
人数 (人)	43	54	57	0	0	23	18	15	10

※コロナにより全て中止

2 取組とSDGsの対応関係

取組内容		目標3 すべての人に健康と福祉を	目標4 質の高い教育をみんなに	目標6 安全な水とトイレを世界中に	目標11 住み続けられるまちづくりを	目標13 気候変動に具体的な対策を	目標15 陸の豊かさも守ろう	目標17 パートナーシップで目標を達成しよう
								
知る	水道水源林ポータルサイト「みずふる」の拡充	○	○					○
	小学生用学習支援教材等のリニューアル		○					○
	多摩川水源サポーターの充実		○					○
触れる	水源地ふれあいのみちの小河内ゾーンにおける新エリアの整備	○					○	○
	水源林ツアーの実施	○	○					○
	学生による森林保全活動の促進	○	○					○
協働	東京水道～企業の森（ネーミングライツ）	○	○				○	○
	企業パートナー制度			○	○	○	○	○
	東京水道～水源林寄附金の充実			○	○	○	○	○
	多摩川水源森林隊における新たな活動の導入	○		○	○	○	○	○
	地元自治体等関係機関との連携			○	○	○	○	○



みんなで作る
水源の森プロジェクト